

## 国際共同研究棟の整備状況

## 1. 研究棟の仕様について（建屋平面図、入居案は「別紙」参照）

- (1) 1階は6部屋の「実験室」や機械室等、2階は居室、小規模の会議室、リフレッシュ・コミュニケーションスペース等を配置。
- (2) 実験室は、各部屋ともほぼ共通のスペックとし、ユーザーが設備や装置を持ち込んで整備する。必要に応じて、ユーザー自身で実験室の整備・補強等を行う。
- (3) 実験室（1部屋当たり）の主なスペックは以下の通り。
  - ・ 広さ : 約 77 m<sup>2</sup>、天井高さ : 約 4m
  - ・ 床耐荷重 : 500kg/m<sup>2</sup>
  - ・ 電源容量 : 200V 30A 1回路、100V 40A 1回路、100V 20A 4回路（1φ）  
200V 30A 1回路（3φ）
  - ・ 照度 : 750
  - ・ 情報設備 : LAN、放送設備
  - ・ 空調 : 夏期 26°C50%、冬期 22°C40%、夏期湿度は目標値
  - ・ 一般換気 : 500 m<sup>3</sup>/h
  - ・ 給水 : 25 A × 1
  - ・ 一般排水 : 50 A × 1（流し台はユーザー側で準備、排水はユーザー管理）
  - ・ 特殊排水 : 無（実験室内回収）
  - ・ 特殊給排気 : 無（外壁に貫通できるパネルを設置）
  - ・ 空調用内部負荷（装置負荷） : 内部負荷 0.2KW/m<sup>2</sup>（54KVA/82 m<sup>2</sup> × 0.3）
  - ・ コールドエリア

## 2. 入居費用について

- (1) 貸付料は、機構の不動産管理に関する規程に基づいて算出される。
- (2) 貸付料は、現時点の試算に拠れば、以下の通り

・ 実験室（約 77 m <sup>2</sup> ）	208 千円/月
・ 研究者居室 1（約 60 m <sup>2</sup> ）	162 千円/月
・ 研究者居室 2、3（約 68 m <sup>2</sup> ）	184 千円/月

- (3) 今後、建屋の仕様、消費税の増税等の変更に伴い、貸付料は変動する可能性がある。
- (4) さらに上記貸付料とは別に、施設の維持、管理等に必要な経費が別途加算予定。（光熱水費や清掃費など）

### 3. 平成 28 年度の機器整備予定

#### 基本設備

- ・ドラフトチャンバー（フード）、実験台

#### 装置

- ・コンパクト Laboratory XAFS : 例①
- ・ガンマ線スペクトロメトリー : 例②
- ・顕微ラマン・赤外吸収分光光度計 : 例③
- ・紫外・可視・近赤外分光光度計
- ・蛍光 X 線・X 線回析計 : 例④
- ・誘導結合プラズマ発光分析計 : 例⑤
- ・誘導結合プラズマ質量分析計 等



例①



例③



例④



例⑤



# 国際共同研究棟建設地

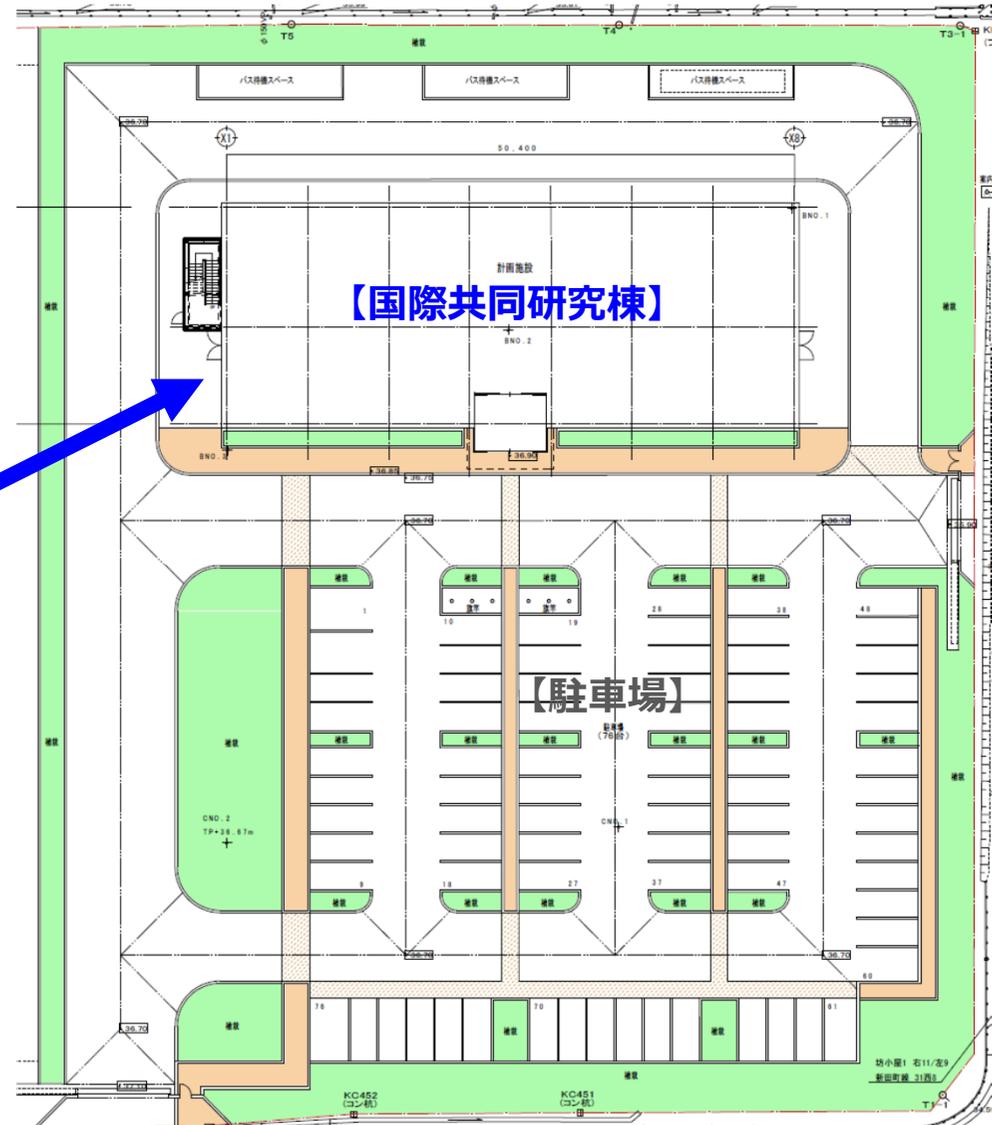


国土地理院の電子地形図を利用しています

## 【国際共同研究棟の完成イメージ】

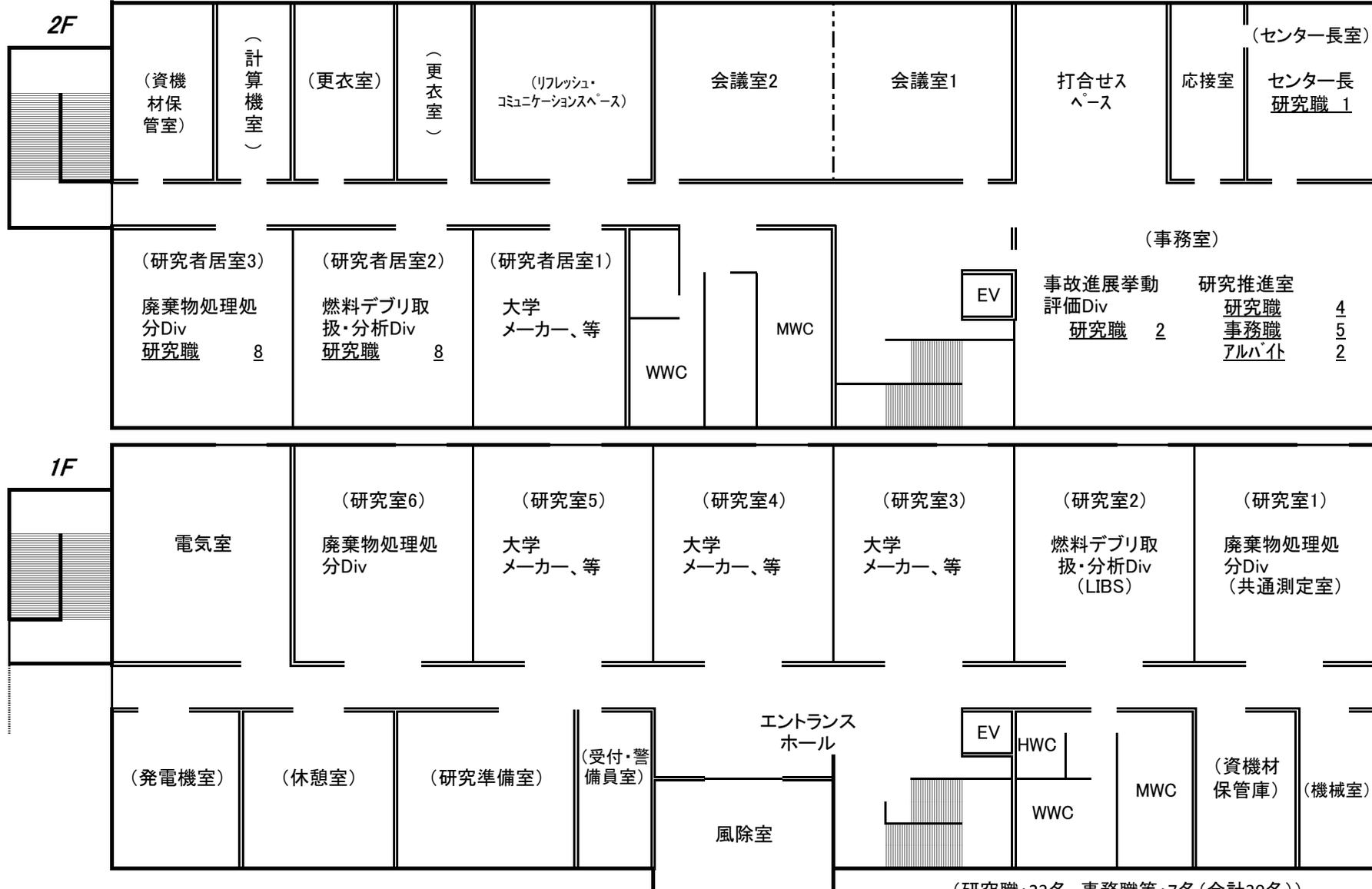


- 用途 : 研究施設
- 構造・規模 : 鉄骨造、地上2階建て
- 建築面積 : 1,096㎡
- 延床面積 : 2,115㎡
- 高さ : 10.3m (屋上ルーパー12m)



平成28年3月28日

国際共同研究棟 部屋割り(案)



(研究職:23名、事務職等:7名(合計30名))

※居室の割振りについては、PFや外部入居者の意向を踏まえて柔軟に対応する  
※屋外の「模擬燃料集合体破損試験装置格納庫」を事故進展挙動評価Divが使用